

- 1 本資料は、千葉県内で発生した安全運転管理者選任事業所、又は運転代行業（以下「安管事業所」といいます。）の従業員が業務中又は通勤中に関係した人身事故を抽出・分析したものです。
- 2 本資料には、他県の安管事業所の従業員が起こした事故の数値が含まれています。本県の安管事業所の従業員が他県で起こした事故の数値は含みません。
- 3 本資料には、物件事故（人の死傷を伴わない事故）の数値は含みません。

安全運転管理者等選任事業所の交通事故発生状況（物件事故除く）

平成 30 年中

1 県内の発生状況（運転目的が業務中・出勤中・退社中のもの）

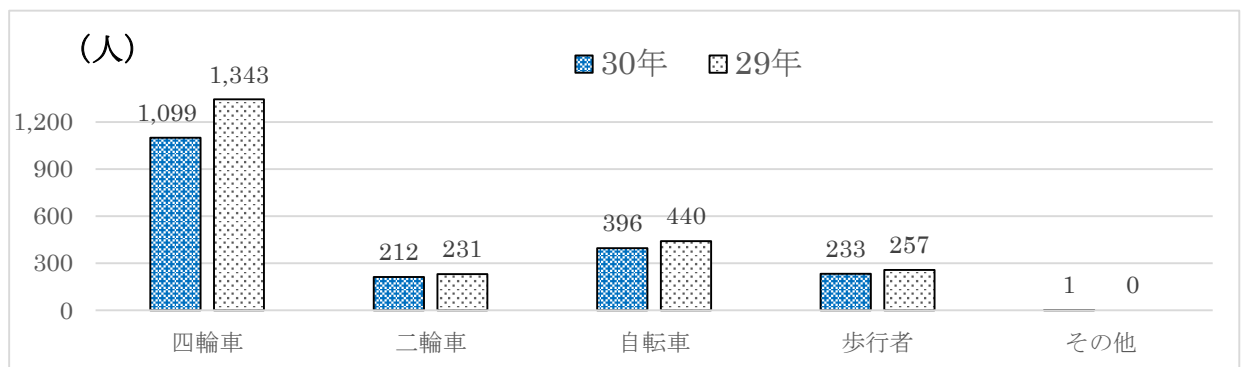
		12月中				累 計			
		30年	29年	増減数	増減率	30年	29年	増減数	増減率
発 生 件 数		142	221	-79	-35.7	1,601	1,880	-279	-14.8
昼	日の出1時間後	17	18	-1	-5.6	86	76	10	13.2
	そ の 他 昼	56	103	-47	-45.6	988	1,222	-234	-19.1
	日の入1時間前	9	10	-1	-10.0	104	86	18	20.9
	昼 計	82	131	-49	-37.4	1,178	1,384	-206	-14.9
夜	日の入1時間後	13	17	-4	-23.5	134	141	-7	-5.0
	そ の 他 夜	40	62	-22	-35.5	265	317	-52	-16.4
	日の出1時間前	7	11	-4	-36.4	24	38	-14	-36.8
	夜 計	60	90	-30	-33.3	423	496	-73	-14.7
死 者 数		4	0	4	0.0	19	6	13	216.7
負 傷 者 数		161	255	-94	-36.9	1,922	2,265	-343	-15.1
重傷者数		16	20	-4	-20.0	146	187	-41	-21.9
軽傷者数		145	235	-90	-38.3	1,776	2,078	-302	-14.5

○ 概略

平成 30 年中における安管選任事業所従業員に係る交通事故は、発生件数と負傷者数がマイナス約 15 パーセントと大幅に減少しましたが、死亡事故は平成 29 年の 3 倍以上の 19 件と著しい増加となりました。特に 12 月中は 142 件中 4 件（36 件に 1 件）が死亡事故となり、深刻な状況です。千葉県内全事故の死者数も 32 人増加して 186 人となり、全国ワースト 2 位となっています。死亡事故の増加傾向は継続していると思われるので、本年も安全運転管理の徹底をお願いいたします。

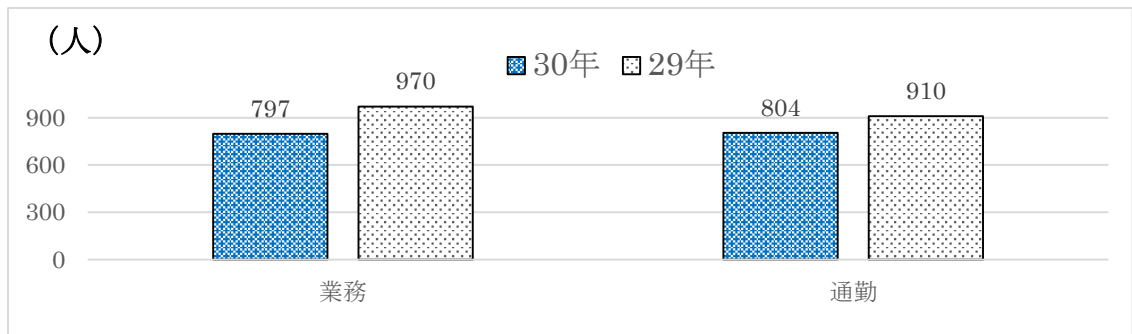
19 人の死者の内、11 人が高齢者でした。県内全体においても高齢者の死亡事故が多発していますので、高齢者にやさしい思いやりのある運転をお願いします。

2 死傷者の状態別（平成 30 年中）



○ 死傷者の状態別では、四輪車乗車中が 1,099 人（56.6%、前年比 -244 人、減少率 18.2%）と大幅に減少しています。他の状態別発死傷者数は昨年と大きな違いは見られませんでした。

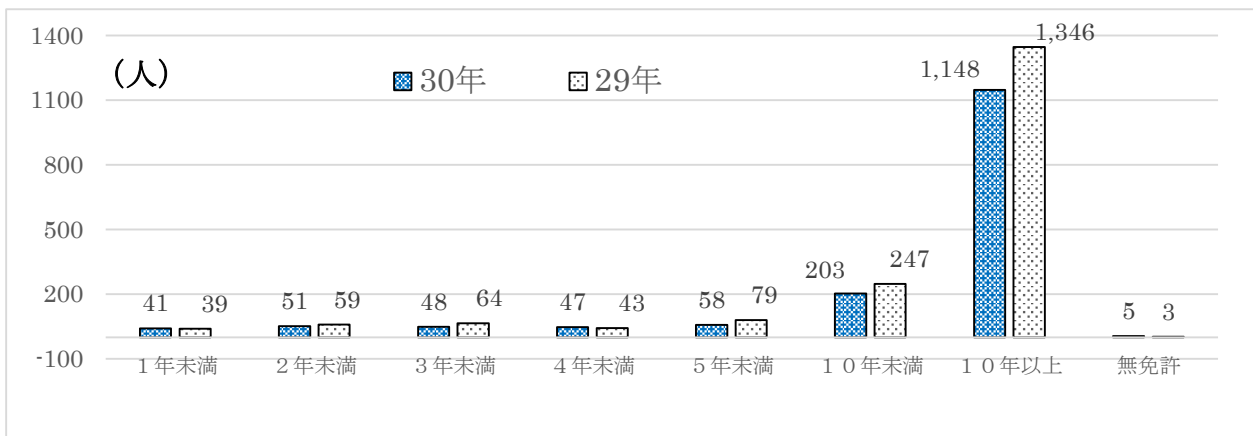
3 第1当事者の運行目的（平成30年中）



○ 第1当事者の運行目的は、業務中が797人（49.8%、前年比-173人）、通勤途中が804人（50.2%、同-106人）でした。

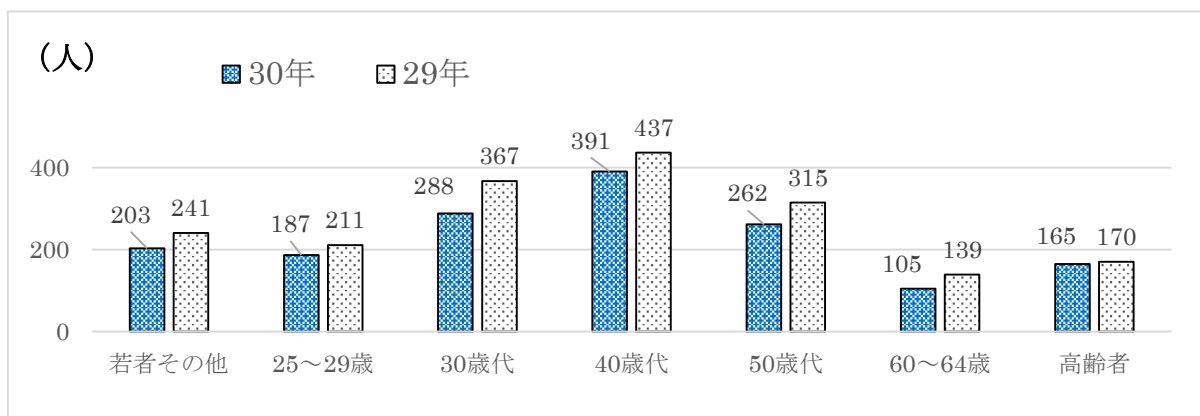
業務で車両を運転する従業員だけではなく、車両通勤者に対しても安全教育を実施するとともに、通勤経路の見直し（生活道路を避け、幹線道路主体の経路に改めるなど）や、危険個所をチェックするなどの対策を推進して下さい。

4 第1当事者の免許経験年数（平成30年中）



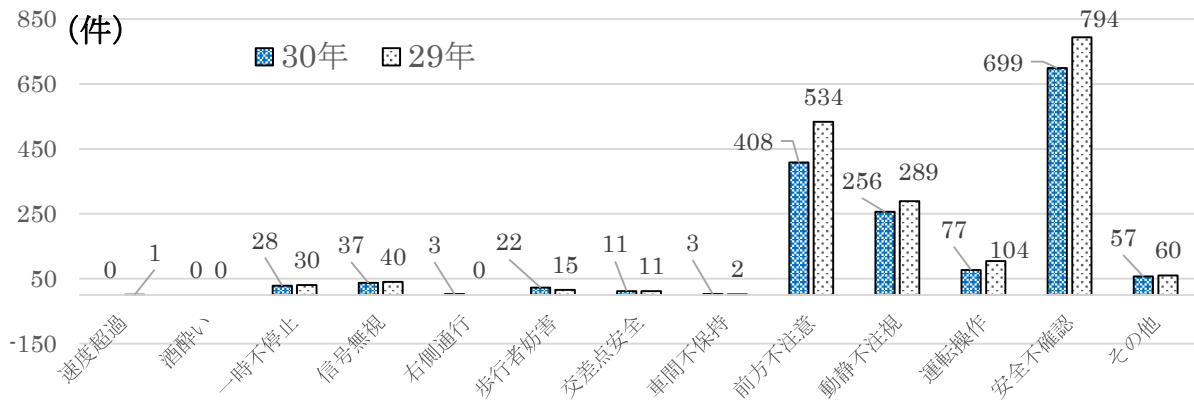
○ 第1当事者の免許取得経過年数別では、経過年数10年以上の者が1,148人（71.7%、前年比-198人）と最も多く、次いで5年以上10年未満の者が203人（12.7%、同-44人）でした。1年未満から5年未満の者の合計は245人（15.3%、同-39人）でした。運転経験の少ない従業員に対する安全教育はもとより、ベテラン従業員に対してもきめ細かい安全教育が必要です。

5 第1当事者の年齢層（平成30年中）



○ 第1当事者の年齢層は40歳代が最も多く、391人（24.4%、前年比-46人）と最も多く、次いで30歳代が288人（18.0%、前年比-79人）とベテラン社員の事故が多くなっています。

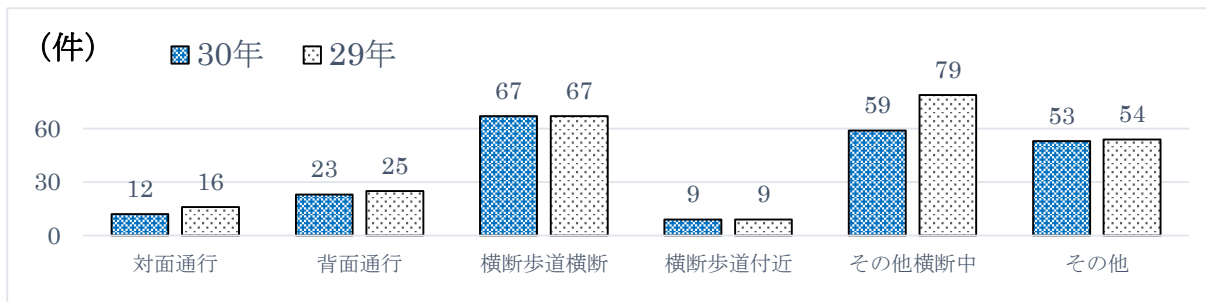
6 第1当事者の違反・原因別（平成30年中）



○ 事故原因は、前方不注意、動静不注意、運転操作不適、安全不確認などの安全運転義務違反が計1,440件で事故原因の89.9%を占めています。

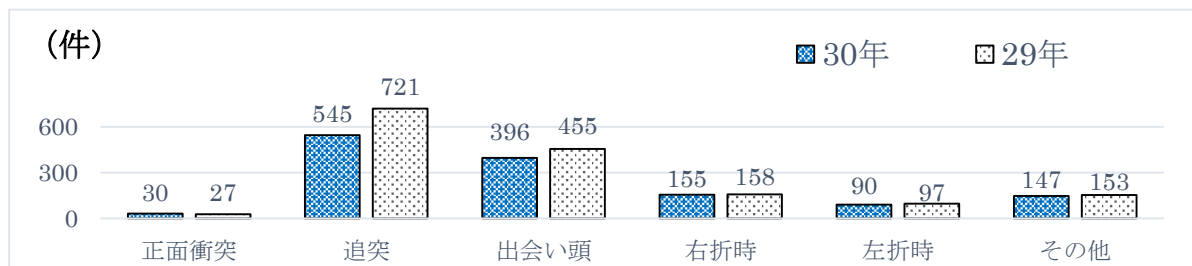
7 事故類型（平成30年中）

(1) 人対車両



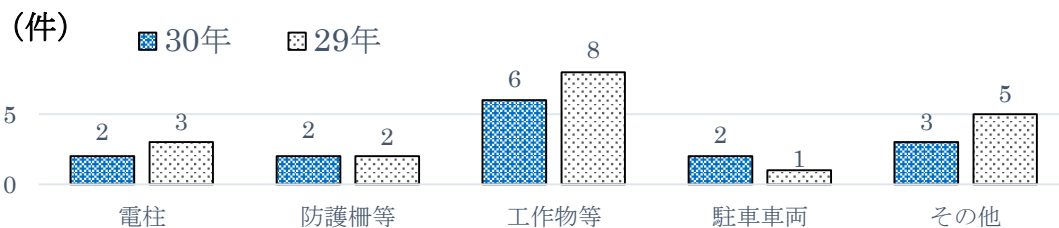
○ 横断中（横断歩道及びその付近、その他横断中）の事故は計135件（8.4%、前年比-20件）でした。人対車両の事故は、重傷事故に発展する可能性が高いので特に注意して下さい。

(2) 車両相互



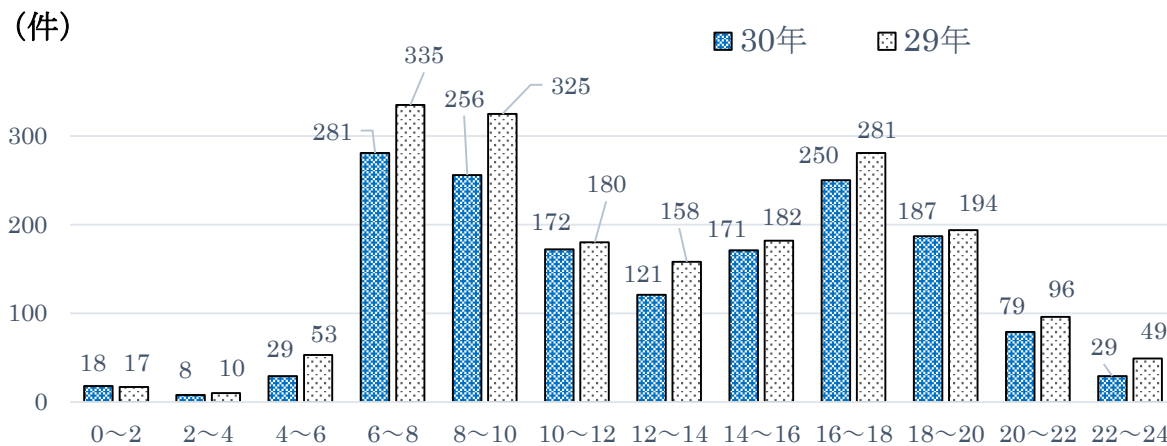
○ 追突の545件（34.0%、前年比-176件）が最も多く、事故類型の3分の1以上を占めています。次に多いのが出会い頭の396件（24.7%、同-59件）です。出会い頭事故は重大事故に発展する可能性が高いので注意して下さい。

(3) 車両単独



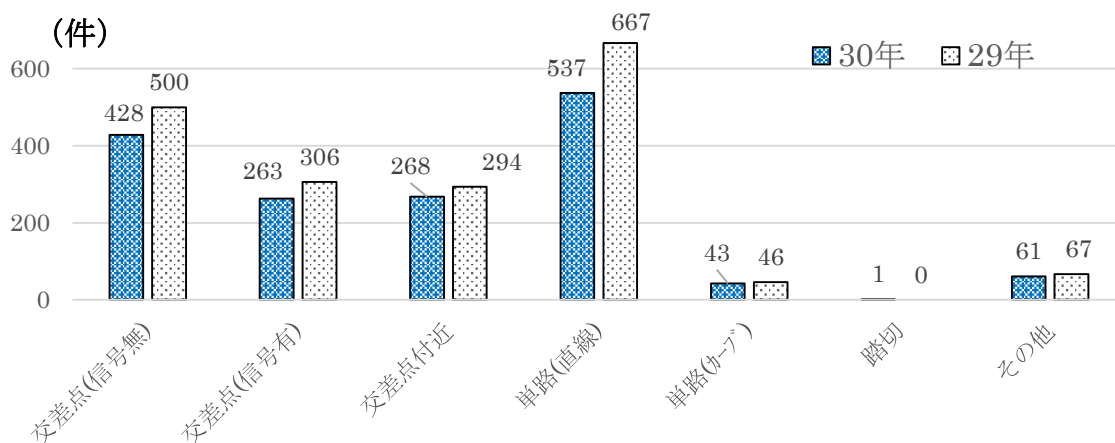
○ 中の車両単独事故は15件（前年比-4件）でした。

8 時間帯別発生状況（平成 30 年中）



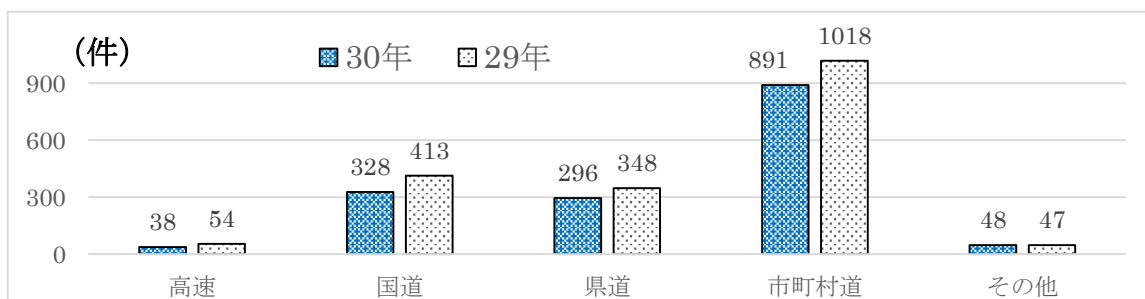
- 時間帯別で最も多いのは、6時から8時までの281件（17.6%、前年比-54件）でした。次いで多く発生したのは8時から10時までの256件（16.0%同-69件）でした。6時から10時までの時間帯に537件、33.5%の事故が発生しています。時間的な余裕を持った出勤や出発に心掛けて下さい。

9 道路形状別発生状況（平成 30 年中）



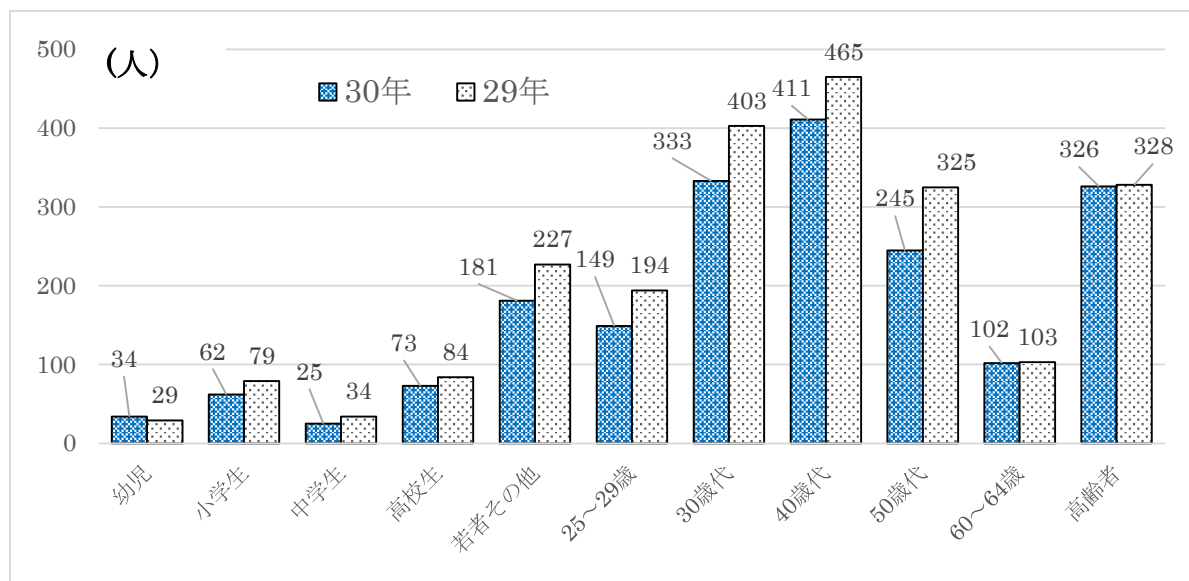
- 道路形状別では、交差点及び交差点付近の事故が合わせて959件（59.9%、前年比-141件）でした。単路（直線）の事故は537件（33.5%、同-130件）といずれも減少しました。

10 道路別発生状況（平成 30 年中）



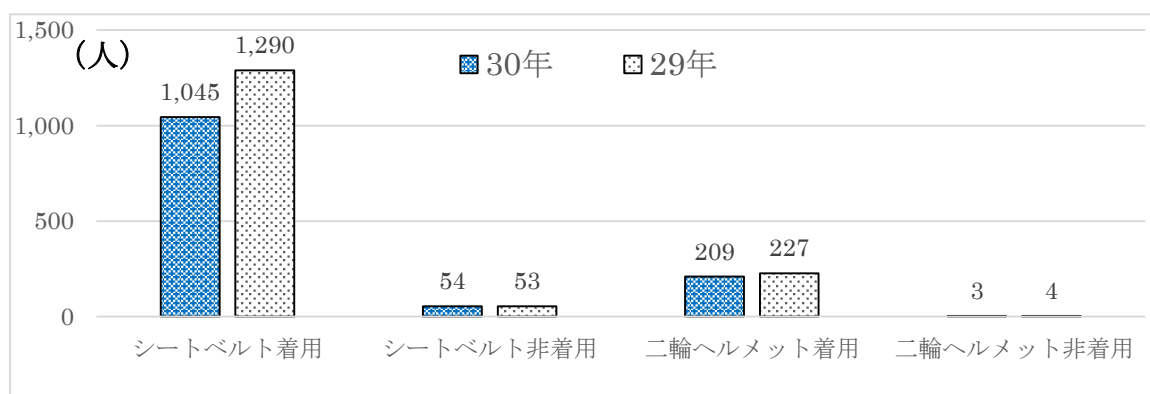
- 道路別では、市町村道が最も多く891件（55.7%、前年比-127件）、次いで国道が328件（20.5%、同-85件）、県道が296件（18.5%、同-52件）でした。

11 死傷者の年齢層別（平成 30 年中）



- 死傷者の年齢層で多かったのは、40歳代の411人（21.2%、前年比-54人）、次いで30歳代の333人（17.2%、同-70人）、高齢者の326人（16.8%、同-2人）です。幼児と高齢者の事故は重大事故になる可能性が高いため、思いやりのある運転に心掛けて下さい。

12 シートベルト・ヘルメット着用状況（平成 30 年中）



- 四輪車の死傷者の内、シートベルトを着用していたのは1,045人（95.1%）、非着用は54人（4.9%）でした。二輪車の死傷者の内、ヘルメットを着用していたのは、209人（98.6%）、非着用は4人（1.4%）でした。